

二十四節気、七十二候について

二十四節気、雑節

※ウィキペディア「日本の暦」より抜粋。
中元とお盆を除いて、日付は年により前後する。

- 1月5日 - 寒の入り（かんのいり）
- 1月5日 - 小寒（しょうかん）
- 1月17日 - 冬の土用（どよう）
- 1月20日 - 大寒（だいかん）
- 2月3日 - 節分（せつぶん）
- 2月4日 - 立春（りっしゅん）
- 2月19日 - 雨水（うすい）
- 3月6日 - 啓蟄（けいちつ）
- 3月16日 - 春の社日（しゃにち）
- 3月18日 - 春彼岸（はるひがん）
- 3月21日 - 春分（しゅんぶん）
- 4月5日 - 清明（せいめい）
- 4月17日 - 春の土用（どよう）
- 4月20日 - 穀雨（こくう）
- 5月2日 - 八十八夜（はちじゅうはちや）

5月6日 - 立夏（りっか）
5月21日 - 小満（しょうまん）
6月6日 - 芒種（ぼうしゅ）
6月11日 - 入梅（にゅうばい）
6月21日 - 夏至（げし）
7月2日 - 半夏生（はんげしょう）
7月7日 - 小暑（しょうしょ）
7月15日 - 中元（ちゅうげん）
7月15日 - 盆（ぼん）
7月20日 - 夏の土用（どよう）
7月23日 - 大暑（たいしょ）
8月8日 - 立秋（りっしゅう）
8月23日 - 処暑（しょしょ）
9月1日 - 二百十日（にひゃくとおか）
9月8日 - 白露（はくろ）
9月11日 - 二百二十日（にひゃくはつか）
9月20日 - 秋彼岸（あきひがん）
9月22日 - 秋の社日（しゃにち）
9月23日 - 秋分（しゅうぶん）
10月8日 - 寒露（かんろ）
10月20日 - 秋の土用（どよう）
10月23日 - 霜降（そうこう）
11月7日 - 立冬（りっとう）

11月22日 - 小雪 (しょうせつ)

12月7日 - 大雪 (たいせつ)

12月22日 - 冬至 (とうじ)

七十二候

【出所】 富山いづみ氏の「七十二候」 (<http://www.nnh.to/yomikata/72kou.html>) より抜粋

2月4日	1	東風解凍	はるかぜこおりをとく	東風が厚い氷を解かし始める
2月9日	2	黄鶯 睨 暁	おうこうけんかんす	うぐいすが山里で鳴き始める
2月14日	3	魚上氷	うおこおりをはいずる	割れた氷の間から魚が飛び出る
2月19日	4	土脉潤起	つちのしょううるおいおこる	雨が降って土が湿り気を含む
2月24日	5	霞始黓	かすみはじめてたなびく	霞がたなびき始める
3月1日	6	草木萌動	そうもくめばえいずる	草木が芽吹き始める
3月6日	7	蟄虫啓戸	すごもりむしとをひらく	冬ごもりの虫が出てくる
3月11日	8	桃始笑	ももはじめてさく	桃の花が咲き始める
3月16日	9	菜虫化蝶	なむしちょうとなる	青虫が羽化して紋白蝶になる

3月21日	10	雀始巢	すずめはじめてすくう	雀が巣をかまえ始める
3月26日	11	桜始開	さくらはじめてひらく	桜の花が咲き始める
3月31日	12	雷乃発声	かみなりすなわちこえをはっす	遠くで雷の声が始める
4月5日	13	玄鳥至	つばめきたる	つばめが南からやってくる
4月10日	14	鴻雁北	こうがんかえる	雁が北へ渡っていく
4月15日	15	虹始見	にじはじめてあらわる	雨の後に虹が出始める
4月20日	16	葭始生	あしはじめてしょうず	葦が芽を吹き始める
4月25日	17	霜止出苗	しもやみてなえいずる	霜が終わり稲の苗が生長する
4月30日	18	牡丹華	ぼたんはなさく	牡丹の花が咲く
5月5日	19	蛙始鳴	かわずはじめてなく	蛙が鳴き始める
5月10日	20	蚯蚓出	みみずいずる	みみずが地上にはい出る
5月15日	21	竹笋生	たけのこしょうず	竹の子が生えてくる
5月21日	22	蚕起食桑	かいこおきてくわをはむ	蚕が桑を盛んに食べ始める
5月26日	23	紅花栄	ばにばなさかう	紅花が盛んに咲く

5月31日	24	麦秋至	むぎのときいたる	麦が熟し麦秋[ばくしゅう]となる
6月6日	25	螳螂生	かまきりしょうず	螳螂が生まれ出る
6月11日	26	腐草為蛸	かれたるくさほたるとなる	(腐った草の下から蛸が生ずる)
6月16日	27	梅子黄	うめのみきなり	梅の実が黄ばんで熟す
6月21日	28	乃東枯	なつかれくさかるる	夏枯草が枯れる
6月27日	29	菖蒲華	あやめはなさく	あやめの花が咲く
7月2日	30	半夏生	はんげしょうず	からすびしゃくが生える
7月7日	31	温風至	あつかぜいたる	あたたかい風が吹いてくる
7月12日	32	蓮始開	はすはじめてひらく	蓮の花が開き始める
7月17日	33	鷹乃学習	たかすなわちたくしゅうす	鷹の幼鳥が飛ぶことを覚える
7月23日	34	桐始結花	きりはじめてはなをむすぶ	桐の実がなり始める
7月29日	35	土潤溽暑	つちうるおうてむしあつし	土がしめって蒸し暑くなる
8月3日	36	大雨時行	たいうときどきふる	時として大雨が降る
8月7日	37	涼風至	すずかぜいたる	涼しい風が立ち始める
8月13日	38	寒蟬鳴	ひぐらしなく	ひぐらしが鳴き始める

8月18日	39	蒙霧升降	ふかききりまとう	深い霧が立ち込める
8月23日	40	綿柎開	わたのはなしべひらく	綿を包む罅[がく]が開く
8月28日	41	天地始肅	てんちはじめてさむし	ようやく暑さが鎮まる
9月2日	42	禾乃登	こくものすなわちみのる	稲が実る
9月8日	43	草露白	くさのつゆしろし	草に降りた露が白く光る
9月13日	44	鶺鴒鳴	せきれいなく	せきれいが鳴き始める
9月18日	45	玄鳥去	つばめさる	つばめが南へ帰っていく
9月23日	46	雷乃収声	かみなりすなわちこえをおさむ	雷が鳴り響かなくなる
9月28日	47	蟄虫 坯 戸	むしかくれてとをふさぐ	虫が土中に掘った穴をふさぐ
10月3日	48	水始涸	みずはじめてかるる	水が凍り始める
10月8日	49	鴻雁来	こうがんきたる	雁が飛来し始める
10月13日	50	菊花開	きくのはなひらく	菊の花が咲く
10月18日	51	蟋蟀在戸	きりぎりすとにあり	きりぎりすが戸にあって鳴く
10月23日	52	霜始降	しもはじめてふる	霜が降り始める

10月28日	53	霎時施	こさめときどきふる	小雨がしとしと降る
11月2日	54	楓蔦黄	もみじつたきばむ	もみじや蔦が黄葉する
11月7日	55	山茶始開	つばきはじめてひらく	つばきの花が咲き始める
11月12日	56	地始凍	ちはじめてこおる	大地が凍り始める
11月17日	57	金盞香	きんせんかさく	水仙の花が咲く
11月22日	58	虹蔵不見	にじかくいれてみえず	虹を見かけなくなる
11月27日	59	朔風払葉	きたかぜこのはをはらう	北風が木の葉を払いのける
12月2日	60	橘始黄	たちばなはじめてきばむ	橘の葉が黄葉し始める
12月7日	61	閉塞成冬	そらさむくふゆとなる	天地の気が塞がって冬となる
12月12日	62	熊蟄穴	くまあなにこもる	熊が冬眠のために穴に隠れる
12月16日	63	鯀魚群	さけのうおむらがる	鮭が群がり川を上る
12月22日	64	乃東生	なつかれくさしょうず	夏枯草が芽を出す
12月27日	65	麋角解	さわしかつのおる	大鹿が角を落とす
1月1日	66	雪下出麦	ゆきわたりてむぎのびる	雪の下で麦が芽を出す

1月5日	67	芹乃栄	せりすなわちさかう	芹がよく生育する
1月10日	68	水泉動	しみずあたたかをふくむ	地中で凍った泉が動き始める
1月15日	69	雉始 <small>雉</small>	きじはじめてなく	雄の雉が鳴き始める
1月20日	70	款冬華	ふきのはなさく	ふきのとうがつぼみを出す
1月25日	71	水沢腹堅	さわみずこおりつめる	沢に氷が厚く張りつめる
1月30日	72	<small>鶏</small> 始乳	にわとりはじめてとやにつく	鶏が卵を産み始める

節句

暦の節目は節句となっている。

1月7日 - 人日（じんじつ）、七草

3月3日 - 上巳（じょうし / じょうみ）、桃の節句

5月5日 - 端午（たんど）、端午の節句

7月7日 - 七夕（しちせき / たなばた）

9月9日 - 重陽（ちょうよう）、菊の節句

各月の別名

1月 - 睦月（むつき）

2月 - 如月 または 衣更着（きさらぎ）

3月 - 弥生（やよい）

4月 - 卯月（うづき）

5月 - 皐月 または 早月（さつき）

6月 - 水無月（みなづき）

7月 - 文月（ふみづき、ふづき）

8月 - 葉月（はづき）

9月 - 長月（ながつき）

10月 - 神無月（かんなづき） 11月 - 霜月（しもつき）

12月 - 師走（しわす、しはす[6]）

※ なお、10月は、出雲地方では神有月（かみありつき）。

【ご参考】 次のサイトが、全体をまとめていて、便利です。

「24節季・72候「わたしの暦」資料」

<http://www.fuchu.or.jp/~okiomoya/72kou.htm>

二十四節気の解説

※ 上記の「24 節季・72 候「わたしの暦」資料」<http://www.fuchu.or.jp/~okiomoya/72kou.htm>から、解説部分を抜粋しています。オーディオブックでは『暦便覧』ののちに説明を読み上げています。『暦便覧』は、江戸時代に太玄斎の書いた暦の解説書で、天明七年（1787）に出版されたものです。

立春 りっしゅん

2月4日頃 春の初め。『暦便覧』には「春の気たつをもつてなり」と。この日から春になる

雨水 うすい

2月19日頃 空から降るものが雪から雨に変わり、雪が溶け始めるころ。正月中。
暦便覧には「陽気地上に発し、雪氷とけて雨水となればなり」と

啓蟄 けいちつ

3月6日頃 大地が暖まり冬眠をしていた虫が穴から出てくるころ。
暦便覧には「陽気地中にうごき、ちぢまる虫、穴をひらき出ればなり」と。

春分 しゅんぶん

3月21日頃 太陽が春分点を通過した瞬間、すなわち太陽の視黄経が0度となった瞬間を春分と定義する
『暦便覧』に「日天の中を行て昼夜等分の時なり」と

清明 せいめい

4月5日頃 万物がすがすがしく明るく美しいころ。

暦便覧には「万物発して清浄明潔なれば、此芽は何の草としれるなり」と

穀雨 こくう

4月20日頃 穀雨とは、穀物の成長を助ける雨のことである。

暦便覧には「春雨降りて百穀を生化すればなり」と

立夏 りっか

5月6日頃 夏の気配が感じられるころ。

暦便覧には「夏の立つがゆへなり」と。この日から夏となる。

小満 しょうまん

5月21日 万物が次第に成長して、一定の大きさに達して来る頃。

暦便覧には「万物盈満（えいまん）すれば草木枝葉繁る」と

芒種 ぼうしゅ

6月6日頃 芒（のぎ）を持った植物の種をまく頃。

暦便覧には「芒（のぎ）ある穀類、稼種する時なり」と実際には、現在の種まきはこれよりも早い。

夏至 げし

6月21日頃 北半球では一年中で一番昼が長く夜が短い日。

『暦便覧』には「陽熱至極しまた、日の長きのいたりなるを以てなり」と

小暑 しょうしょ

7月7日頃 梅雨明けが近づき、暑さが本格的になるころ。
暦便覧には「大暑来れる前なればなり」と

大暑 たいしょ

7月23日頃 快晴が続き気温が上がり続けるころ。
暦便覧には「暑氣いたりつまりたるゆえんなればなり」と

立秋 りっしゅう

8月7日頃 初めて秋の気配が表われてくるところとされる。七月節。
『暦便覧』では「初めて秋の気立つがゆゑなれば也」と

処暑 しょしょ

8月23日頃 暑さが峠を越えて後退し始めるころ。
『暦便覧』では、「陽氣とどまりて、初めて退きやまむとすれば也」と

白露 はくろ

9月8日頃 大気が冷えて来て、露ができはじめるころ。
『暦便覧』では、「陰氣やうやく重りて、露にごりて白色となれば也」と

秋分 しゅうぶん

9月23日頃 昼夜の長さがほぼ同じになる。
『暦便覧』では「陰陽の中分なれば也」と説明している。しかし、実際には、昼の方が夜よりもすこし長い

寒露 かんろ

10月8日頃 露が冷気によって凍りそうになるころ。

『暦便覧』では、「陰寒の気に合つて露結び凝らんとすれば也」と

霜降 そうこう

10月23日頃 露が冷気によって霜となって降り始めるころ。

『暦便覧』では、「露が陰気に結ばれて霜となりて降るゆゑ也」と

立冬 りっとう

11月7日頃 初めて冬の気配が現われてくる日。

『暦便覧』では、「冬の気立ち始めて、いよいよ冷ゆれば也」と

小雪 しょうせつ

11月22日頃 僅かながら雪が降り始めるころ。

『暦便覧』では、「冷ゆるが故に雨も雪と也てくだるが故也」と

大雪 たいせつ

12月7日頃 雪が激しく降り始めるころ。

『暦便覧』では、「雪いよいよ降り重ねる折からなれば也」と

冬至 とうじ

12月22日頃 北半球では一年の間で昼が最も短く夜が最も長くなる日。

『暦便覧』では「日南の限りを行て、日の短きの至りなれば也」と

小寒 しょうかん

1月5日頃 寒さが最も厳しくなる前の時期。

『暦覧』では、「冬至より一陽起こる故に陰気に逆らふ故、益々冷える也」と。この日を寒の入り。

大寒 だいかん

1月20日頃 寒さが最も厳しくなるころ。

『暦便覧』では、「冷ゆることの至りて甚だしきときなれば也」と

【ご参考】 次のサイトなどに、詳しく書かれています。

「二十四節気」 <https://www.tvkanazawa.co.jp/tenki/season.html>